



財務書類4表

令和 3 年度

にかほ市

目 次

第1章 はじめに

1. 地方公会計制度について	1
2. 財務書類4表とは	2
3. 財務書類4表作成の前提条件	2
4. 財務書類4表の相互関係	3

第2章 財務書類4表（一般会計）の概要

1. 貸借対照表について	
(1) 貸借対照表とは	4
(2) 令和3年度貸借対照表	5
2. 行政コスト計算書について	
(1) 行政コスト計算書とは	6
(2) 令和3年度行政コスト計算書	7
3. 純資産変動計算書について	
(1) 純資産変動計算書とは	8
(2) 令和3年度純資産変動計算書	9
4. 資金収支計算書について	
(1) 資金収支計算書とは	10
(2) 令和3年度 資金収支計算書	11
(3) プライマリーバランス（基礎的財政収支）とは	11

第3章 財務書類の分析（一般会計ベース）

1. 市民一人当たりの貸借対照表	12
2. 市民一人当たりの行政コスト計算書	13
3. 資産形成度	14
4. 世代間公平性	15
5. 持続可能性（健全性）	16
6. 弾力性	16
7. 自律性	17

【一般会計 財務書類】

○ 貸借対照表	18
○ 行政コスト計算書	19
○ 純資産変動計算書	20
○ 資金収支計算書	21
○ 注記	22
○ 附属明細書	23
○ 各表の用語解説	29

第4章 連結財務書類4表

1. 連結財務書類とは	33
2. 連結貸借対照表について	35
3. 連結行政コスト計算書について	37
4. 連結純資産変動計算書について	38
5. 連結資金収支計算書について	39

【全体・連結 財務書類】

○ 貸借対照表	40
○ 行政コスト計算書	42
○ 純資産変動計算書	44
○ 資金収支計算書	46
○ 注記	48

第1章／はじめに

第1節 地方公会計制度について

地方公共団体における会計制度は、「現金主義・単式簿記」方式を採用しており、1年間にどのような収入があり、その収入をいくら使ったのかという現金収支の把握に適しています。その反面、これまでに市が整備してきた資産や将来返済しなければならない負債の残高、年度ごとの実質的なコストの把握が困難であるといった問題がありました。

そこで、「新地方公会計制度改革」として、企業的手法（発生主義・複式簿記）を地方公共団体にも取り入れる取組みが進められてきました。この会計制度により作成された財務書類は、従来の会計方式では見えにくかったストック情報やコスト情報を一覧的に把握することができます。

本市では、財務書類を作成する方法として総務省より提示された、「基準モデル」と「総務省方式改訂モデル」という作成方法のうち、「総務省方式改訂モデル」により平成19年度決算から普通会計ベースの財務書類4表を作成し、平成20年度決算からは普通会計財務書類、特別会計・企業会計を含んだ全体財務書類、一部事務組合及び第三セクター等を含む連結財務書類4表を作成し、平成27年度決算まで公表を行ってきたところです。

しかし、これまで全国の各地方公共団体において財務書類の作成・公表がなされているところですが、整備方式の違いや整備状況に差があることから、団体間の比較が困難であることなど、新たな課題が出てきました。

このため、総務省では、平成27年1月に「統一的な基準による地方公会計の整備促進について（総務大臣通知）」を示し、平成27年度から平成29年までの3年間で、全ての地方公共団体において、統一的な基準による財務書類を作成するよう要請しました。

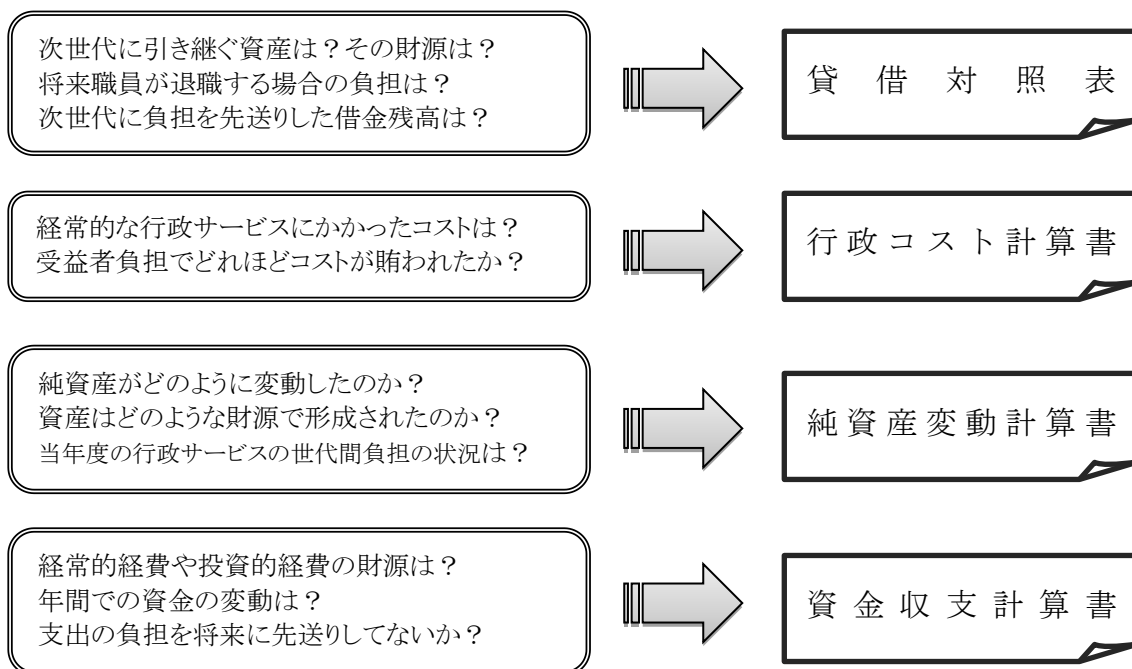
これを受け、本市では平成27年度から固定資産台帳整備を行い、平成28年度決算から「統一的な基準」による財務書類を作成しました。

今後は、本市と類似団体の比較・分析等を通じた分かりやすい財政状況の公表による透明性の確保及び予算編成や財政推計などへの財務書類の効率的な活用を検討しながら、引き続き健全な財政運営に努めてまいります。

第2節 財務書類4表とは

統一的な基準による財務書類は「①貸借対照表」、「②行政コスト計算書」、「③純資産変動計算書」、「④資金収支計算書」の4つの表で構成されています。

現行の現金主義の会計制度では把握することが困難な投資及び出資金の時価による評価、退職手当引当金などの将来的に必要な支出、建物・備品等の減価償却による費用などを算定し、資産・債務のストック情報や行政コストなどを明確にすることができます。つまり、財務書類4表は、現金主義で見えにくいコストなどを把握するための補完的役割をします。



第3節 財務書類4表作成の前提条件

本市の財務書類4表は、平成27年1月（平成28年5月改訂）に総務省が公表した「統一的な基準による地方公会計マニュアル」（以下「作成マニュアル」という。）に基づき、下記の諸条件のもと作成しています。

（1）対象範囲

にかほ市の普通会計（一般会計）・特別会計及び連結会計（詳細は第4章）

（2）基準日

作成の基準日は、令和4年3月31日とし、令和4年4月1日から令和4年5月31日までの出納整理期間における入出金は、作成基準日までに終了したものとしします。

(3) 基礎数値

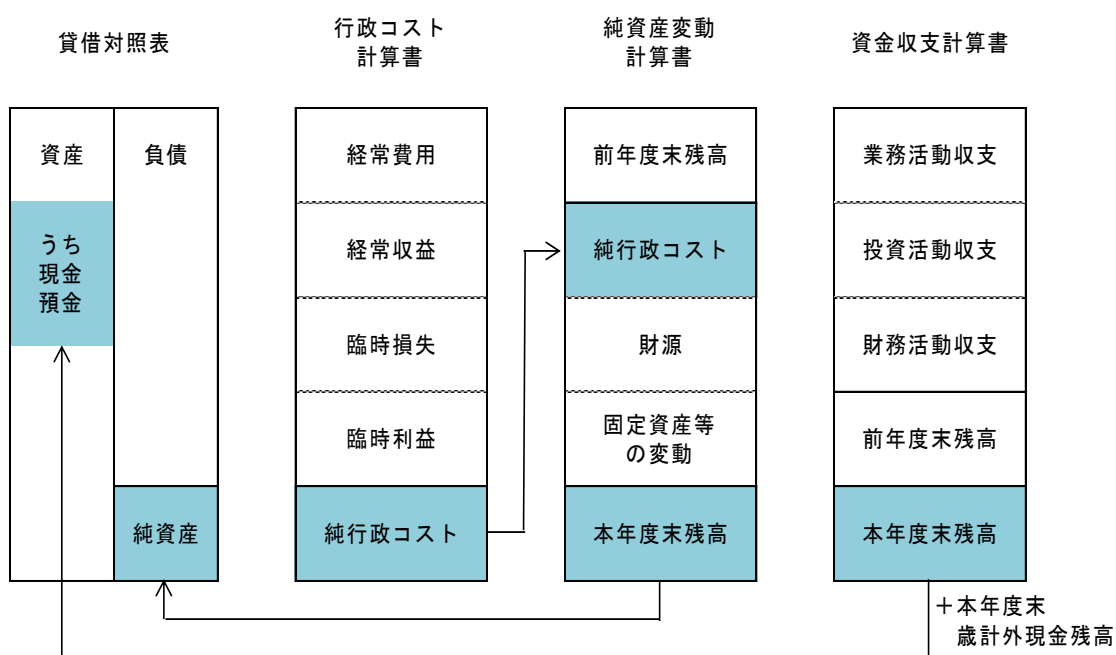
令和3年度の個々の伝票データ及び固定資産台帳のデータを基に作成しています。

歳入歳出を伴わない資産・負債の価値変動については、資産負債内訳簿により把握しています。

なお、国から譲渡された法定外公共物や旧上浜財産区や旧上郷財産区、平沢財産区、金浦地区入会地の有する資産については資産計上しないこととしています。

第4節 財務書類4表の相互関係

財務書類4表は、それぞれが結びついており、その関係を示したものが下の図になります。



- 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を加えたものと対応します。
- 貸借対照表の「純資産」の金額は、資産と負債の差額として計算されますが、これは純資産変動計算書の本年度末残高と対応します。
- 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

第2章／財務書類4表(一般会計)の概要

第1節 貸借対照表について

(1) 貸借対照表とは

市の財産の状況を、資産・負債・純資産の3区分に分けて一覧にまとめたものです。行政サービスを提供するために所有する資産（土地・建物・基金など）がどれだけあり、どのような財源（負債・純資産）で賄ってきたのかなど、これまでの負担と将来の負担とのバランスを見ることができます。

●資産の総額は、1,209億円であり、このうち庁舎や学校などその他用地を含む「事業用資産」が431億円（35.6%）、道路や橋りょうなど「インフラ資産」が702億円（58.1%）を占めています。

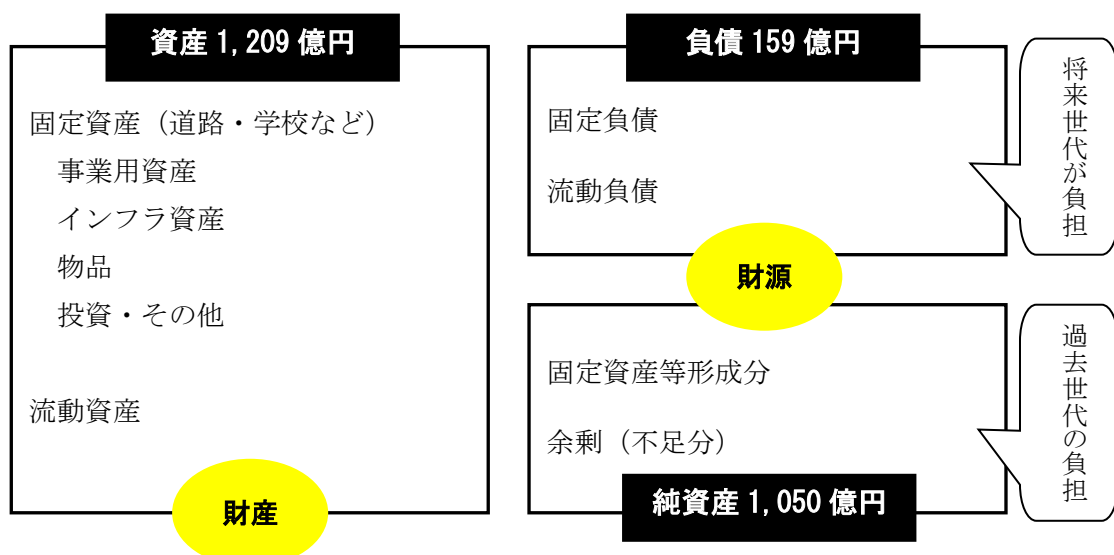
●固定資産においては、道路の取得年月日の再精査による減価償却累計額の修正等を行いました。前年度より1,986億円の減少となっており、うち修正に係るものはマイナス1,953億円となっています。

●資産調達（財源）として、将来返済する地方債などの負債が159億円、これまでの世代が負担した純資産が1,050億円となっています。

●市民1人あたりの金額に換算すると・・・(R4.1.1 現在 23,490人)

資産 = 約515万円

負債 = 約67万円



(2) 令和3年度 貸借対照表

① 概 要

令和3年度 貸借対照表
(令和4年3月31日現在)

(単位：千円)

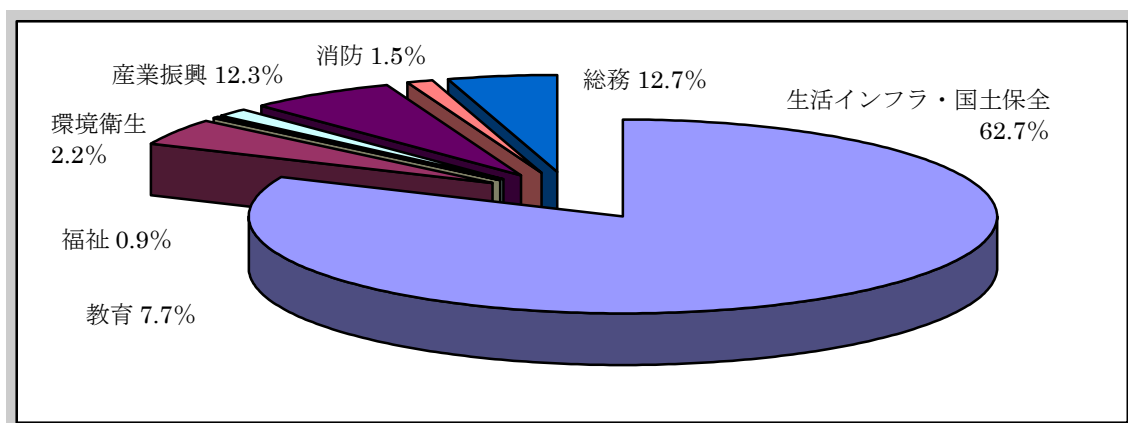
資 産 の 部	金 額	負 債 の 部	金 額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	116,939,297	固定負債	14,062,256
有形固定資産	113,651,613	地方債	12,407,057
事業用資産	43,078,650	長期未払金	-
インフラ資産	70,241,915	退職手当引当金	1,655,199
物品	331,048	その他	-
無形固定資産	-	流動負債	1,791,589
投資その他の資産	3,287,684	1年内償還予定地方債	1,662,195
投資及び出資金	146,277	賞与等引当金	129,393
長期延滞債権	64,768	その他	-
長期貸付金	141	負債合計	15,853,845
基金	3,091,775	【純資産の部】	
その他	-	固定資産等形成分	120,206,129
徴収不能引当金	△15,277	余剰分(不足分)	△15,194,642
流動資産	3,926,035		
現金預金	641,964		
未収金	17,239		
短期貸付金	-		
基金	3,266,832		
その他	-		
徴収不能引当金	-	純資産合計	105,011,487
資産合計	120,865,332	負債及び純資産合計	120,865,332

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

② グラフ (行政目的別割合)

本市の有形固定資産の行政目的別割合は、下のグラフのとおりです。

行政分野ごとの公共資産形成の比重を把握することができます。



第2節 行政コスト計算書について

(1) 行政コスト計算書とは

1年間に提供された行政サービスに要した費用（資産形成に繋がる支出は除き、減価償却費や引当金繰入額など現金の流出入を伴わないものを含む）から行政サービスの対価として得られた使用料や手数料などの収入を差し引いたものが純粋な行政コストとなります。これにより、行政サービスの受益と負担の割合を見ることができます。

民間企業の損益計算書にあたるものですが、あえて利益概念を避けていますので損益計算書とは意味合いが違うものとなっています。

純行政コスト（マイナス）は、最終的に税収や国県等補助金などで補てんする必要があります。その計算過程は「第3節 純資産変動計算書」で示されます。

●1年間の行政サービスを提供するためにかった費用は173億円で、使用料や手数料など利用者負担6億円を差し引いた純経常行政コストは167億円となっています。

●最も多くかかっているコストは減価償却費で42億円となっていますが、現金の流出入を伴うものでは、物にかかるコストの物件費38億円が最も多く、ふるさと納税関連経費（3億円）、新型コロナウイルスワクチン接種事業（1億円）などが主な経費です。

●市民1人あたりの金額に換算すると・・・(R4.1.1 現在 23,490人)

純経常行政コスト = 約71万円

人にかかるコスト (職員給料、議員報酬、非常勤職員の報酬など)	27億円	173億円
物にかかるコスト (消耗品費、修繕料、委託料、減価償却費など)	88億円	
移転支出的なコスト (生活保護などの社会保障給付費、各種団体への補助金など)	57億円	
その他のコスト (支払利息、徴収不能引当金繰入金など)	1億円	
使用料・手数料などの利用者負担		▲6億円
純経常行政コスト		167億円
臨時損益 (災害復旧事業費、資産売却損益など)		1億円
純行政コスト		168億円

(2) 令和3年度 行政コスト計算書

① 概 要

令和3年度 行政コスト計算書

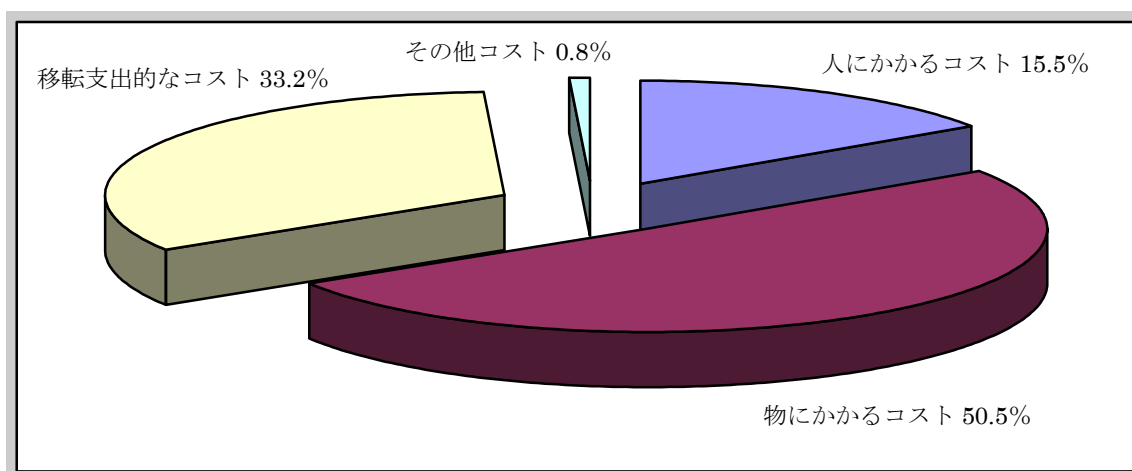
(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目 名	金 額
経 常 費 用	17,283,033
1. 人にかかるコスト	2,672,688
(1)人件費	2,290,506
(2)その他	382,181
2. 物にかかるコスト	8,744,982
(1)物件費	3,777,854
(2)減価償却費	4,195,832
(3)その他	771,297
3. 移転支出的なコスト	5,734,362
(1)補助金等	3,160,897
(2)他会計への繰出金	1,143,717
(3)その他	1,429,748
4. その他のコスト	131,001
(1)支払利息	50,010
(2)その他	80,991
経 常 収 益	572,703
(1)使用料及び手数料	144,941
(2)その他	427,762
純 経 常 行 政 コ ス ト	16,710,330

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

② グラフ (性質別割合)



第3節 純資産変動計算書について

(1) 純資産変動計算書とは

貸借対照表上の「純資産（※資産から負債を差し引いたもの）」が1年間でどのように変動したのか、その内訳を示すものです。純資産の変動は現世代と将来世代との間での資源の配分を意味します。

例えば、負債の増加（地方債の発行など）による純資産の減少は、現世代が資源から得られる便益を享受する一方で、将来世代に負債の返済負担を先送りしたことになります。

純資産を減少させる主な項目は、行政コスト計算書の純経常行政コストで、純資産を増加させる主な項目は税収及び国・県からの補助金等です。

●純行政コスト168億円に対して、税収や国県補助金などの財源が143億円であるため、本年度差額は25億円のマイナスとなっています。

●行政コストに占める減価償却費42億円や物件費38億円等が多額であるために、当年度の収入では賄いきれていないことが分かります。

●本年度は道路の取得年月日の再精査による減価償却累計額の修正等を行ったため、その他の変動としてマイナス1,953億円を計上しております。本年度差額のマイナス25億円と合わせ、本年度末の純資産残高は1,050億円（対前年度比△1,978億円）となりました。

前年度末純資産残高		3,028億円	A
純行政コスト ※行政コスト計算書と一致		▲168億円	㊦
財 源	税収等	105億円	
	国県等補助金	38億円	
	合計	143億円	㊧
本年度差額（㊦－㊧）		▲25億円	B
その他の変動		▲1,953億円	C
本年度末純資産残高（A＋B＋C）		1,050億円	

(2) 令和3年度 純資産変動計算書

① 概 要

令和3年度 純資産変動計算書

(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目 名	金 額
前年度末純資産残高	302,769,740
純行政コスト	△16,773,816
財源	14,335,807
税収等	10,506,479
国県等補助金	3,829,328
資産評価差額	△194
無償所管換等	△195,320,050
その他	-
本年度末純資産残高	105,011,487

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

第4節 資金収支計算書について

(1) 資金収支計算書とは

資金収支計算書とは、民間企業が作成するキャッシュフロー計算書に該当するものであり、行政コスト計算書とは違い、単純に現金ベースで1年間の資金の流れ（フロー）を性質の異なる3つの区分（業務活動、投資活動、財務活動）に分けて示すものです。

業務活動	支出	人件費	25.9億円	行政サービスに要する費用や税金など、市の経常的な行政活動に伴って継続的に発生する資金収支	
		物件費	45.6億円		
		補助金等支出	31.6億円		
		社会保障給付費	14.2億円		
		他会計への繰出金	11.4億円		
		その他	2.1億円		
	収入	税金等	105.1億円		
		国県等補助金	36.2億円		
		使用料及び手数料	1.5億円		
		その他	4.3億円		
業務活動収支			16.3億円	㊦	
投資活動	支出	公共施設等整備費	9.9億円	公共施設の整備や、それに伴う補助金の受入れなど、市の資本形成活動に伴って発生する資金収支	
		基金積立金	14.6億円		
		貸付金・その他	1.1億円		
	収入	国県等補助金	2.1億円		
		基金取崩	11.2億円		
		貸付金回収・その他	1.3億円		
	投資活動収支			▲11.0億円	㊧
	財務活動	支出	地方債償還支出	15.8億円	地方債の発行による収入や償還支出など負債の管理に係る資金収支
収入		地方債発行収入	12.7億円		
財務活動収支			▲3.1億円	㊨	
本年度資金収支額（㊦+㊧+㊨）			2.2億円	A	
前年度末資金残高			4.2億円	B	
本年度末現金預金残高（A+B）			6.4億円		
※貸借対照表の「現金預金」と一致					

(2) 令和3年度 資金収支計算書

① 概 要

令和3年度 資金収支計算書

(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目 名	金 額
1. 業務活動収支	1,632,467
2. 投資活動収支	△1,096,707
3. 財務活動収支	△314,426
本年度資金収支額	221,334
前年度末資金残高	420,630
本年度末資金残高	641,964

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

(3) プライマリーバランス（基礎的財政収支）とは

資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息を除く）及び投資活動収支（基金積立金及び基金取崩収入を除く）の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標とすることができます。

プライマリーバランスが赤字（マイナス）の場合は、行政サービスの不足財源を借金に頼ることになり、結果として将来の世代に負担を先送りしてしまい、逆に黒字（プラス）の場合は、行政サービスの経費が税収などの収入で賄われていることになるため、財政が健全であると言えます。

(単位：千円)

区 分	令和3年度	令和2年度
A 業務活動収支	1,632,467	1,800,719
B 支払利息支出	50,010	58,130
C 投資活動収支	△1,096,707	△1,575,688
D 基金積立支出	1,459,829	1,697,879
E 基金取崩収入	1,124,495	476,190
プライマリーバランス(A+B) + (C+D-E)	921,104	1,504,850

第3章／財務書類の分析 ～一般会計ベース～

1. 市民一人当たりの貸借対照表

通常の貸借対照表では、市町村の人口規模等により単純な他団体比較は困難ですが、各項目の数値を市民一人当たりで算出することにより、他団体との単純比較が可能となります。

市民一人当たりになだけの資産及び負債があるのかを表します。

令和3年度貸借対照表(市民一人当たり算出)

科 目 名	残 高 (千円)	一人当たり 残高(円)	科 目 名	残 高 (千円)	一人当たり残 高(円)
[資 産 の 部]			[負 債 の 部]		
1. 固定資産	116,939,297	4,978,259	1. 固定負債	14,062,256	598,649
(1)有形固定資産	113,651,613	4,838,298	(1)地方債	12,407,057	528,185
事業用資産	43,078,650	1,833,915	(2)長期未払金	-	-
インフラ資産	70,241,915	2,990,290	(3)退職手当引当金	1,655,199	70,464
物品	331,048	14,093	(4)その他	-	-
(2)投資その他の資産	3,287,684	139,961	2. 流動負債	1,791,589	76,270
投資及び出資金	146,277	6,227	(1)翌年度償還地方債	1,662,195	70,762
長期延滞債権	64,768	2,757	(2)賞与等引当金	129,393	5,508
長期貸付金	141	6	(3)その他	-	-
基金	3,091,775	131,621	負 債 合 計	15,853,845	674,919
徴収不能引当金	△15,277	△650	[純 資 産 の 部]		
2. 流動資産	3,926,035	167,136	1. 固定資産等形成分	120,206,129	5,117,332
(1)現金預金	641,964	27,329	2. 余剰分(不足分)	△15,194,642	△646,856
(2)未収金	17,239	734			
(3)基金	3,266,832	139,073			
(4)徴収不能引当金	-	-	純 資 産 合 計	105,011,487	4,470,476
資 産 合 計	120,865,332	5,145,395	負債・純資産合計	120,865,332	5,145,395

*令和4年1月1日現在の人口 23,490 人で算出

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

2. 市民一人当たりの行政コスト計算書

資産・負債同様に各項目の数値を市民一人当たりで算出することにより、他団体との単純比較が可能となります。市民一人当たりになだけの行政サービスが提供されたかを表します。

令和3年度行政コスト計算書(市民一人当たり算出)

科 目 名		金 額 (千円)	一人当たり コスト(円)
経 常 費 用		17,283,033	735,761
人にかか るコスト	職員給与費	2,074,489	88,314
	賞与等引当金繰入額	129,393	5,508
	退職手当引当金繰入額	86,624	3,688
	その他	382,181	16,270
	小計	2,672,688	113,780
物にかか るコスト	物件費	3,777,854	160,828
	維持補修費	764,862	32,561
	減価償却費	4,195,832	178,622
	その他	6,435	274
	小計	8,744,982	372,285
移 転 支 出 的 な コ ス ト	補助金等	3,160,897	134,563
	社会保障給付	1,417,354	60,339
	他会計への繰出金	1,143,717	48,689
	その他	12,394	528
	小計	5,734,362	244,119
そ の 他 の コ ス ト	支払利息	50,010	2,129
	徴収不能引当金繰入額	10,939	466
	その他	70,052	2,982
	小計	131,001	5,577
経 常 収 益		572,703	24,381
純 経 常 行 政 コ ス ト (経常費用－経常収益)		16,710,330	711,380

*令和4年1月1日現在の人口 23,490 人で算出

*臨時損益を除く純経常行政コストで表示

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

各種指標による分析

3. 資産形成度

【資産老朽化比率(有形固定資産減価償却率)】

有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比して償却資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。この比率が高いほど、施設の老朽化が進んでいると言えます。

$$\text{資産老朽化比率} = \frac{\text{減価償却累計額}}{\text{有形固定資産合計} - \text{土地等} + \text{減価償却累計額}}$$

(単位:千円)

区 分		令和3年度	令和2年度
減価償却累計額	A	120,372,386	152,515,142
有形固定資産合計	B	113,651,613	312,176,730
土地等の非償却資産	C	28,212,364	32,771,278
資産老朽化比率	A/(B-C+A)	58.5%	35.3%

*貸借対照表の数値

●行政目的別に見ると、すべての区分において資産老朽化比率が50%を超えており、総務(各庁舎、公共施設等)が最も高い68.9%となっております。

(単位:千円)

区 分	生活インフラ ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務
有形固定資産 (償却資産)	70,196,354	6,785,986	554,683	1,861,436	3,010,492	1,574,845	1,455,453
減価償却累計額	98,569,360	8,394,267	834,660	1,885,567	4,329,157	3,136,461	3,222,914
資産老朽化比率	58.4%	55.3%	60.1%	50.3%	59.0%	66.6%	68.9%

【歳入額対資産比率】

歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、形成された資産には何年分の歳入が充当されたかを見ることができます

この比率により、これまで資本的支出に重点を置いていたのか、費用的支出に重点を置いてきたのかが分かります。

年数が多いほど、社会資本の整備が進んでいると考えられますが、一方では維持管理費が多く発生し後年度に財政的な負担を強いるものとも考えられます。

$$\text{歳入額対資産比率} = \frac{\text{資 産 合 計}}{\text{歳 入 合 計}}$$

(単位:千円)

区 分		令和3年度	令和2年度
資産合計	A	120,865,332	318,855,825
歳入総額	B	17,447,622	19,057,870
歳入額対資産比率	A/B	6.9 年	16.7 年

*「歳入総額」は資金収支計算書の各部の収入総額、「資産合計」は貸借対照表の数値

4. 世代間公平性

【純資産比率】

資産額のうち、償還義務のない純資産の割合を算出することにより、財政の状態の健全化を示すことができます。また、地方自治体は地方債の発行を通じて将来世代と現世代との分担を行っているため、純資産の変動は将来世代と現世代との間で負担の割合が変動したことも意味します。

比率が高いほど、これまでの世代によって資産を取得してきたことになります。

$$\text{純資産比率} = \frac{\text{純 資 産 合 計}}{\text{資 産 合 計}}$$

(単位:千円)

区 分		令和3年度	令和2年度
純資産合計	A	105,011,487	302,769,740
資産合計	B	120,865,332	318,855,825
純資産比率	A/B	86.9%	95.0%

*貸借対照表の数値

【将来世代負担比率】

公共資産のうち、将来の償還等が必要な負債による形成割合を算出することにより、将来世代の負担の比重を把握することができます。比率が高いほど、将来世代の負担が大きいことになります。

$$\text{将来世代負担比率} = \frac{\text{地 方 債 残 高}}{\text{公 共 資 産 (有 形 ・ 無 形 固 定 資 産 合 計)}}$$

(単位:千円)

区 分		令和3年度	令和2年度
地方債残高	A	14,069,252	14,383,678
公共資産合計	B	113,651,613	312,176,730
将来世代負担比率	A/B	12.4%	4.6%

*貸借対照表の数値

5. 持続可能性(健全性)

【債務償還可能年数】

実質債務(地方債残高や退職手当引当金などから充当可能な基金等を控除した債務)を、経常的に確保できる資金で返済する場合、何年で返済できるかを表しています。償還可能年数が短いほど、債務償還能力が高いと言えます。

$$\text{債務償還可能年数} = \frac{\text{将来負担額} - \text{充当可能基金残高等}}{\text{業務活動収支} + \text{臨時財政対策債発行可能額}}$$

(単位:千円)

区 分		令和3年度	令和2年度
将来負担額	A	27,464,856	28,743,196
充当可能基金残高等	B	23,480,074	23,432,007
業務活動収支	C	1,632,467	1,800,719
臨時財政対策債発行可能額	D	284,790	301,125
債務償還可能年数	(A-B)/(C+D)	2.1 年	2.5 年

*「将来負担額」「充当可能基金残高等」は貸借対照表の注記(地方公共団体健全化法上の将来負担比率の算定式による)、「業務活動収支」は資金収支計算書、「臨時財政対策債発行可能額」は各年度借入額の数値

6. 弾力性

【行政コスト対税率等比率】

行政活動の弾力性を測定するための指標であり、当年度の税率等のうちどれだけが資産形成を伴わない行政コストに費消されたのかを表しています。

比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低くなり、100%を上回る場合は過去から蓄積されてきた資産が取り崩されていることを意味します。換言すれば、比率が100%を下回っている場合は民間企業における「経常利益」が発生している状況であり、100%を超えている場合は同じく「経常損失」が発生している状況となります。

$$\text{行政コスト対税率等比率} = \frac{\text{純経常行政コスト}}{\text{一般財源等 (税率等 + 国県等補助金)}}$$

(単位:千円)

区 分		令和3年度	令和2年度
純経常行政コスト	A	16,710,330	22,831,412
税率等	B	10,506,479	10,085,089
国県等補助金	C	3,829,328	5,726,776
行政コスト対税率等比率	A/(B+C)	116.6%	144.4%

*「純経常行政コスト」は行政コスト計算書、「税率等」「国県等補助金」は純資産変動計算書の数値

7. 自律性

【受益者負担比率】

行政活動の自律性(受益者負担の水準はどうなっているか)を測定するための指標であり、行政コスト計算書における経常収益(使用料・手数料など行政サービスに係る受益者負担の金額)を経常費用と比較し、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表しています。

受益者負担比率 = $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}}$

(単位:千円)

区 分		令和3年度	令和2年度
経常収益	A	572,703	563,083
経常費用	B	17,283,033	23,413,762
受益者負担比率	A/B	3.3%	2.4%

*行政コスト計算書の数値

一般会計 財務書類

- 貸借対照表
- 行政コスト計算書
- 純資産変動計算書
- 資金収支計算書
- 注記
- 附属明細書
- 各表の用語解説

貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

自治体名:にかほ市

会計:一般会計

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	116,939,297	固定負債	14,062,256
有形固定資産	113,651,613	地方債	12,407,057
事業用資産	43,078,650	長期未払金	-
土地	19,300,072	退職手当引当金	1,655,199
立木竹	8,364,507	損失補償等引当金	-
建物	35,045,055	その他	-
建物減価償却累計額	-20,963,545	流動負債	1,791,589
工作物	3,831,877	1年内償還予定地方債	1,662,195
工作物減価償却累計額	-2,499,317	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	129,393
航空機	-	預り金	-
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	15,853,845
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	-	固定資産等形成分	120,206,129
インフラ資産	70,241,915	余剰分(不足分)	-15,194,642
土地	513,320		
建物	9,300		
建物減価償却累計額	-6,278		
工作物	165,629,958		
工作物減価償却累計額	-95,904,385		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	1,329,909		
物品減価償却累計額	-998,861		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	3,287,684		
投資及び出資金	146,277		
有価証券	22,072		
出資金	124,205		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	64,768		
長期貸付金	141		
基金	3,091,775		
減債基金	-		
その他	3,091,775		
その他	-		
徴収不能引当金	-15,277		
流動資産	3,926,035		
現金預金	641,964		
未収金	17,239		
短期貸付金	-		
基金	3,266,832		
財政調整基金	3,266,832		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-	純資産合計	105,011,487
資産合計	120,865,332	負債及び純資産合計	120,865,332

①売却可能資産に係る資産科目別の金額及びその範囲

土地 12, 042, 944千円
建物 33, 632千円

②地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額
12, 090, 888千円

③将来負担に関する情報（地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素）

イ. 一般会計等に係る地方債の現在高 14, 069, 252千円
ロ. 債務負担行為に基づく支出予定額 0千円
ハ. 一般会計等以外の特別会計に係る地方債の償還に充てるための一般会計等からの繰入見込額 11, 655, 906千円
ニ. 組合等が起こした地方債の償還に係る負担見込額 0千円
ホ. 退職手当支給予定額に係る一般会計等負担見込額 1, 739, 698千円
ヘ. 設立法人の負債の額等に係る一般会計等負担見込額 0千円
ト. 連結実質赤字額 0千円
チ. 組合等の連結実質赤字額に係る一般会計等負担見込額 0千円
リ. 地方債の償還額等に充当可能な基金 5, 054, 592千円
ス. 地方債の償還額等に充当可能な特定の歳入 198, 799千円
ル. 地方債の償還等に要する経費として基準財政需要額に算入されることが見込まれる額 18, 226, 683千円

行政コスト計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:一般会計

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	17,283,033
業務費用	11,548,671
人件費	2,672,688
職員給与費	2,074,489
賞与等引当金繰入額	129,393
退職手当引当金繰入額	86,624
その他	382,181
物件費等	8,744,982
物件費	3,777,854
維持補修費	764,862
減価償却費	4,195,832
その他	6,435
その他の業務費用	131,001
支払利息	50,010
徴収不能引当金繰入額	10,939
その他	70,052
移転費用	5,734,362
補助金等	3,160,897
社会保障給付	1,417,354
他会計への繰出金	1,143,717
その他	12,394
経常収益	572,703
使用料及び手数料	144,941
その他	427,762
純経常行政コスト	16,710,330
臨時損失	87,832
災害復旧事業費	87,471
資産除売却損	360
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	24,346
資産売却益	-
その他	24,346
純行政コスト	16,773,816

純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:一般会計

(単位:千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	
前年度末純資産残高	302,769,740	318,402,946	-15,633,206	
純行政コスト(△)	-16,773,816		-16,773,816	
財源	14,335,807		14,335,807	
税金等	10,506,479		10,506,479	
国県等補助金	3,829,328		3,829,328	
本年度差額	-2,438,009		-2,438,009	
固定資産等の変動(内部変動)		-2,876,573	2,876,573	
有形固定資産等の増加		474,221,820	-474,221,820	
有形固定資産等の減少		-476,996,140	476,996,140	
貸付金・基金等の増加		1,072,838	-1,072,838	
貸付金・基金等の減少		-1,175,091	1,175,091	
資産評価差額	-194	-194		
無償所管換等	-195,320,050	-195,320,050		
その他	-	-	-	
本年度純資産変動額	-197,758,253	-198,196,818	438,564	
本年度末純資産残高	105,011,487	120,206,129	-1,519,462	

①純資産における固定資産等形成分及び余剰（不足分）の内容

固定資産等形成分は、資産形成のために充当した資源が蓄積されたもので、原則として固定資産等の形態で保有されています。

余剰分（不足分）は、費消可能な資源が蓄積されたもので、原則として金銭の形態で保有されています。

資金収支計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名: にかほ市

会計: 一般会計

(単位: 千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	12,989,748
業務費用支出	7,255,386
人件費支出	2,590,502
物件費等支出	4,558,329
支払利息支出	50,010
その他の支出	56,545
移転費用支出	5,734,362
補助金等支出	3,160,897
社会保障給付支出	1,417,354
他会計への繰出支出	1,143,717
その他の支出	12,394
業務収入	14,709,686
税金等収入	10,512,192
国県等補助金収入	3,624,261
使用料及び手数料収入	145,427
その他の収入	427,806
臨時支出	87,471
災害復旧事業費支出	87,471
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	1,632,467
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,560,953
公共施設等整備費支出	991,124
基金積立金支出	1,459,829
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	110,000
その他の支出	-
投資活動収入	1,464,246
国県等補助金収入	205,067
基金取崩収入	1,124,495
貸付金元金回収収入	110,338
資産売却収入	24,346
その他の収入	-
投資活動収支	-1,096,707
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,588,116
地方債償還支出	1,588,116
その他の支出	-
財務活動収入	1,273,690
地方債発行収入	1,273,690
その他の収入	-
財務活動収支	-314,426
本年度資金収支額	221,334
前年度末資金残高	420,630
本年度末資金残高	641,964
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	-
本年度末歳計外現金残高	-
本年度末現金預金残高	641,964

①基礎的財政収支

業務活動収支	1,632,467千円
支払利息支出	50,010千円
投資活動収支	△1,096,707千円
基金積立支出	1,459,829千円
基金取崩収入	△1,124,495千円

基礎的財政収支 921,104千円

②資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差異の主なもの

固定資産等の取得に充当する補助金収入	205,067千円
減価償却費	4,195,832千円
賞与等引当金繰入額・退職手当引当金繰入額	216,017千円
徴収不能引当金繰入額	0千円

③一時借入金の限度額

・一時借入金の限度額	2,000,000千円
・一時借入金に係る利子	0千円

④重要な非資産取引

該当ありません。

注 記

I 重要な会計方針

①有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得価額とし、取得価額が不明なものは原則として再調達価額としております。
また開始後については、原則として取得原価とし再調達は行わないこととしております。

②有価証券等の評価基準及び評価方法

・出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としております。
・出資金のうち、市場価格がないものは出資金額をもって貸借対照表価額としております。
ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。
なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしております。

③有形固定資産等の減価償却の方法

・有形固定資産（事業用資産、インフラ資産）
定額法を採用しております。
・無形固定資産
定額法を採用しております。

④引当金の計上基準及び算定方法

・徴収不能引当金
過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。
・賞与引当金
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。
・退職手当引当金
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っております。
・損失補償引当金
地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定方法に従っております。

⑤リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っております（少額リース資産及び短期のリース取引には簡便的な取扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っております）。

⑥資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としております。
このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

⑦その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理
税込方式によっております。

II 重要な会計方針の変更等

該当する事象はありません。

III 重要な後発事象

①その他重要な後発事象

・有形固定資産のうちインフラ資産（工作物：道路）について、取得年月日の精査により減価償却累計額を修正しております。
・その他有形固定資産の精査により、取得価額が二重に計上されていた一部の資産について資産計上額を修正しております。

IV 偶発債務

会計年度末においては現実の債務ではないが、将来、一定の条件を満たすような事態が生じた場合に債務となるものはありません。

V その他

①対象範囲（対象とする会計）

一般会計

②出納整理期間について、財務書類の作成基準日は、会計年度末（3月31日）ですが、地方自治法第235条の5（「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する」）の規定により、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

③表示単位未満の金額は四捨五入することとしておりますが、四捨五入により合計金額に齟齬が生じる場合があります。

④地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況

（注意）地方公共団体財政健全化法における各比率算定の対象と基準モデルにおける会計の対象とは範囲が異なります。

実質赤字比率の算定に必要とされる事項	
実質赤字	0千円
標準財政規模の額	9,371,369千円

⑤利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定

農業経営基盤強化資金等利子助成費補助金（平成19年度分）	26千円
農業経営基盤強化資金等利子助成費補助金（平成22年度分）	27千円
金浦駅こ線入道橋補修・補強工事	142,989千円
航空レーザー計測・森林資源解析業務	31,844千円
農業経営緊急対策資金利子助成費補助金（令和3年度米価下落対策）	2,118千円
各種ごみ収集運搬業務	101,530千円
一般廃棄物最終処分場運営管理業務	17,424千円

⑥繰越事業に係る将来の支出予定額

繰越明許費（一般財源）	157,044千円
事故繰越し（一般財源）	0千円

●附属明細書(一般会計)

①有形固定資産の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

区分	前年度末残高 (A)	本年度増加額 (B)	本年度減少額 (C)	本年度末残高 (A)+(B)-(C) (D)	本年度末 減価償却累計額 (E)	本年度減価償却額 (F)	差引本年度末残高 (D)-(E) (G)
事業用資産	104,458,806	967,695	38,884,989	66,541,511	23,462,862	784,326	43,078,650
土地	19,279,622	102,750	82,300	19,300,072	-	-	19,300,072
立木竹	12,954,620	-	4,590,113	8,364,507	-	-	8,364,507
建物	66,699,294	833,650	32,487,889	35,045,055	20,963,545	696,955	14,081,510
工作物	5,525,269	31,295	1,724,687	3,831,877	2,499,317	87,371	1,332,561
その他	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-
インフラ資産	358,897,093	154,342,501	347,087,016	166,152,578	95,910,663	3,336,185	70,241,915
土地	502,571	10,749	-	513,320	-	-	513,320
建物	650,795	-	641,495	9,300	6,278	251	3,022
工作物	357,743,728	154,331,752	346,445,522	165,629,958	95,904,385	3,335,934	69,725,573
その他	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-
物品	1,335,973	13,942	20,006	1,329,909	998,861	75,321	331,048
合計	464,691,872	155,324,138	385,992,011	234,023,999	120,372,386	4,195,832	113,651,613

②有形固定資産に係る行政目的別の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

区分	生活インフラ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	合計
事業用資産	2,226,966	8,544,448	1,043,126	2,473,660	12,852,633	1,574,279	14,363,539	43,078,650
土地	794,760	1,857,940	488,442	613,881	2,431,486	110,480	13,003,084	19,300,072
立木竹	-	-	-	-	8,364,507	-	-	8,364,507
建物	1,393,425	6,576,106	547,687	1,859,551	1,831,382	512,905	1,360,455	14,081,510
工作物	38,781	110,402	6,997	228	225,258	950,894	-	1,332,561
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-	-
インフラ資産	68,969,542	73,045	-	0	1,144,546	-	54,781	70,241,915
土地	240,806	73,045	-	0	194,922	-	4,547	513,320
建物	-	-	-	-	3,022	-	-	3,022
工作物	68,728,736	-	-	-	946,602	-	50,234	69,725,573
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-	-
物品	35,412	126,943	0	1,657	4,226	111,046	51,764	331,048
合計	71,231,920	8,744,436	1,043,126	2,475,317	14,001,405	1,685,325	14,470,084	113,651,613

③基金の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

種類	現金預金	有価証券	土地	その他	合計 (貸借対照表計上額)	(参考)財産に関する 調書記載額
財政調整基金	3,166,832	100,000			3,266,832	2,836,473
減債基金	0				0	0
みらい創造基金	616,318				616,318	594,889
観光振興基金	90,216				90,216	86,075
白瀬南極探検隊記念館施設整備基金	182,487				182,487	182,487
山崎科学教育振興基金	189,899				189,899	189,899
社会教育施設整備基金	400,166				400,166	400,166
地域振興基金	295,485	1,000,000			1,295,485	1,473,560
自然エネルギーによるまちづくり基金	13,401				13,401	10,808
森林環境譲与税基金	26,603				26,603	21,816
奨学資金貸付基金	53,622			207,578	261,200	261,200
高額療養費資金貸付基金	6,000				6,000	6,000
象潟郷土資料館資料取得基金	10,000				10,000	10,000
合計	5,051,029	1,100,000	0	207,578	6,358,607	6,073,373

④貸付金の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

相手先名または種別	長期貸付金		短期貸付金		(参考) 貸付金計
	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額	
ひとり親家庭等住宅整備資金貸付金	141				156
合計	141	0	0	0	156

⑤長期延滞債権の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

相手先名または種別	貸借対照表計上額	徴収不能引当金計上額
【貸付金】		
災害援護資金貸付金	1,060	
小計	1,060	0
【未収金】		
税等未収金		
市民税	10,910	3,565
固定資産税	35,565	8,048
軽自動車税	1,061	416
その他の未収金		
公営住宅使用料	9,890	0
土地建物貸付収入	3,068	0
その他	3,214	0
小計	63,708	12,029
合計	64,768	12,029

⑥未収金の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

相手先名または種別	貸借対照表計上額	徴収不能引当金計上額
【貸付金】		
小計	0	0
【未収金】		
税等未収金		
市民税	4,093	
固定資産税	12,002	4,310
軽自動車税	434	18
その他の未収金		
公営住宅使用料	264	
土地建物貸付収入	444	
その他	2	
小計	17,239	4,328
合計	17,239	4,328

⑦地方債等(借入先別)の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

種類	地方債等残高		政府資金	地方公共団体金融機構	市中銀行	その他の金融機関	地方公募債			その他
		うち1年以内償還予定						うち共同発行債	うち住民公募債	
【通常分】	8,393,287	1,108,231	2,126,590	213,173	4,283,984	397,444	0	0	0	1,372,096
一般公共事業	620,485	110,841	470,855	0	43,016	32,272	0	0	0	74,343
公営住宅建設	198,799	36,153	57,557	0	39,920	9,250	0	0	0	92,071
災害復旧	51,955	6,005	51,955	0	0	0	0	0	0	0
教育・福祉施設	437,627	77,348	355,544	0	62,000	3,528	0	0	0	16,555
一般単独事業	5,614,094	743,444	145,348	192,173	3,840,078	247,368	0	0	0	1,189,127
その他	1,470,326	134,440	1,045,330	21,000	298,970	105,026	0	0	0	0
【特別分】	5,675,966	553,965	1,356,045	23,212	2,458,647	784,191	0	0	0	1,053,871
臨時財政対策債	5,385,464	475,922	1,317,479	0	2,458,647	784,191	0	0	0	825,146
減税補てん債	38,565	12,326	38,565	0	0	0	0	0	0	0
退職手当債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	251,937	65,717	0	23,212	0	0	0	0	0	228,725
【その他】	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	14,069,252	1,662,195	3,482,635	236,385	6,742,631	1,181,635	0	0	0	2,425,967

⑧地方債等(利率別)の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

地方債等残高	1.5%以下	1.5%超 2.0%以下	2.0%超 2.5%以下	2.5%超 3.0%以下	3.0%超 3.5%以下	3.5%超 4.0%以下	4.0%超	(参考) 加重平均 利率
14,069,252	13,319,556	578,176	155,997	7,581	5,950	0	1,992	0.676

⑨地方債等(返済期間別)の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

地方債等残高	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超 15年以内	15年超 20年以内	20年超
14,069,252	454,400	0	0	0	35,120	1,655,539	6,184,985	5,111,525	627,683

⑩特定の契約条項が付された地方債等の概要

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

特定の契約条項が 付された地方債等残高	契約条項の概要

⑪引当金の明細

にかほ市：一般会計

年度：令和3年度

(単位：千円)

区分	前年度末残高	本年度増加額	本年度減少額		本年度末残高
			目的使用	その他	
徴収不能引当金(固定)	-16,367	12,029	0	10,939	-15,277
徴収不能引当金(流動)	0	0	0	0	0
退職手当引当金	1,568,575	227,272	0	140,648	1,655,199
賞与等引当金	133,831	129,393	133,831	0	129,393
合計	1,686,040	368,694	133,831	151,587	1,769,315

● 貸借対照表の用語解説

用 語		解 説
資 産 の 部	有形固定資産	土地や建物等の不動産、消防車や高額備品等の動産で、保有が長期に及ぶ資産
	事業用資産	自治体として行う事業のための資産で、インフラ資産及び物品以外の資産。
	インフラ資産	自治体が社会資本基盤の整備を目的とした、道路や橋りょう、下水道施設、河川など、必要不可欠なネットワークの一部であり、性質が特殊で代替的な利用ができない、移動させることができない、処分に関して制約を受ける等の特質をもつ資産。 (例) 道路、河川、港湾、公園、防災、上水道施設、下水道施設等
	建設仮勘定	工期が一般会計年度を超える建設中の建物など、完成前の有形固定資産への支出等を仮に計上しておくための勘定科目であり、当該有形固定資産が完成した時点で本勘定に振り替えられる。
	投資及び出資金	にかほ市観光開発(株)、秋田県信用保証協会、(財)秋田県栽培漁業協会ほか県内の財団法人等への出資金や出えん金
	貸付金	社会福祉施設整備資金貸付金、開業開店起業化資金貸付金、高齢者等住宅整備資金貸付金など
	基金(固定資産-その他)	みらい創造基金、観光振興基金、地域振興基金、山崎科学教育振興基金など、特定の目的に充てるために積立てられた基金
	長期延滞債権(未収金)	市税などの収入未済額のうち一年以上未収のもの ＊当該年度内に発生したものは未収金に計上
	徴収不能引当金	時効等により将来徴収不能となる可能性が高いと見込まれるもの
	流動資産	一年以内に現金化できる資産
	財政調整基金	年度間の財源調整を図り、財政の健全な運営のために設けられた基金
	減債基金	地方債の償還に充てるため積立てられた基金

用 語		解 説
負 債 の 部	地方債 (翌年度償還予定地方債)	地方債のうち翌々年度以降に返済が生じるもの * 翌年度に返済すべきものは、翌年度償還予定地方債として流動負債に計上
	長期未払金 (未払金)	物件等の引渡しを受けたもののうち、支払いが済んでいない債務で翌々年度以降に返済が生じるもの * 翌年度に返済すべきものは未払金に計上
	退職手当引当金	年度末に全職員が退職すると仮定した場合の要支給額 * 「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の退職手当支給額に係る負担見込の算定に準じた額を計上
	損失補償等引当金	第三セクター等への損失補償債務について、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の将来負担比率の算定に含めた金額
	賞与等引当金	翌年度に支払うことが予定される賞与のうち今年度負担分 * n+1 年度の 6 月に支給される 6 ヶ月分のうち n 年度の 12 月～3 月の 4 ヶ月分
純 資 産 の 部	固定資産等形成分	貸借対照表の有形固定資産、投資及び出資金、貸付金、基金を形成している財源
	余剰分(不足分)	貸借対照表の固定資産等形成分以外の財源(翌年度以降に自由に使用できる財源) * 資産形成を伴わない負債(退職手当引当金、臨時財政対策債など)は、将来の市税等の一般財源で賄わなければならないため、通常マイナス表示となります

● 行政コスト計算書の用語解説

用 語		解 説
人にかか るコスト	人件費	給与費(報酬、職員給、各種手当等)から退職手当及び前年度賞与引当金を除いた金額
	賞与等引当金繰入額	翌年度に支払うことが予定される賞与のうち今年度負担分 *n+1年度の6月に支給される6ヶ月分のうちn年度の 12月～3月の4ヶ月分
	退職手当引当金繰入額	当該年度に引当金として新たに繰り入れた額など
物にかか るコスト	物件費	旅費、臨時職員賃金、備品購入費、委託料、光熱水費などの経費
	維持補修費	建物や道路など、施設の維持修繕に要する経費
	減価償却費	有形固定資産が経年劣化等に伴い、価値が減少したと認められる金額
移転支 出的な コスト	社会保障給付	児童手当の支給、高齢者や障害者に対する援護措置、生活保護などに要する経費
	補助金等	他団体の事業に対する補助金(普通建設事業にかかわるものは除く)、国・県・一部事務組合等の業務を行うための負担金など
	他会計への繰出金	特別会計など他会計に対する財政的な支援金額
その 他 の コ ス ト	支払利息	地方債及び一時借入金の利子支払額
	徴収不能引当金繰入額	時効等により徴収不能見込みの市税や使用料・手数料など
	その他	失業対策に要した経費など
経 常 収 益	使用料	施設を利用した際に徴収する料金
	手数料	戸籍や住民票、税務証明の発行など、公の役務の提供に対し徴収する料金
	その他	分担金・負担金・寄附金等
純経常行政コスト		経常行政コストから行政サービス提供の対価である使用料・手数料や分担金・負担金などの経常収益を差し引いた金額

● 純資産変動計算書の用語解説

用 語		解 説
表 頭	財源	貸借対照表の有形固定資産及び投資及び出資金、貸付金、基金を形成している財源
	税金等	地方税、地方交付税及び地方譲与税など
	国県等補助金	国庫支出金及び都道府県支出金など
表 側	有形固定資産等の増加	有形固定資産及び無形固定資産の形成による保有資産の増加額または有形固定資産及び無形固定資産の形成のために支出(または支出が確定)した金額
	有形固定資産等の減少	有形固定資産及び無形固定資産の減価償却費相当額及び除売却による減少額または有形固定資産及び無形固定資産の売却収入(元本分)、除却相当額及び自己金融効果を伴う減価償却費相当額等
	貸付金・基金等の増加	貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額または新たな貸付金・基金等のために支出した金額
	貸付金・基金等の減少	貸付金の償還及び基金の取崩等による減少額または貸付金の償還収入及び基金の取崩収入相当額
	資産評価差額	有価証券等の評価差額
	無償所管換等	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等

● 資金収支計算書の用語解説

用 語	解 説
業務活動収支	市政を運営する上で、毎年度継続的に収入、支出されるもの
投資活動収支	道路や学校、公園など主に貸借対照表の有形固定資産形成(資本形成)のための臨時・特別に発生する支出及び財源
財務活動収支	地方債の発行及び元金償還等の負債の管理に係る経費及び財源

第4章／連結財務書類4表

第1節 連結財務書類とは

(1) 連結の目的と必要性

にかほ市では、普通会計で実施している事業のほかにも、公営企業会計で水道事業、特別会計で公共下水道事業や国民健康保険事業など、市民生活と密接な関わりのある事業を行っています。

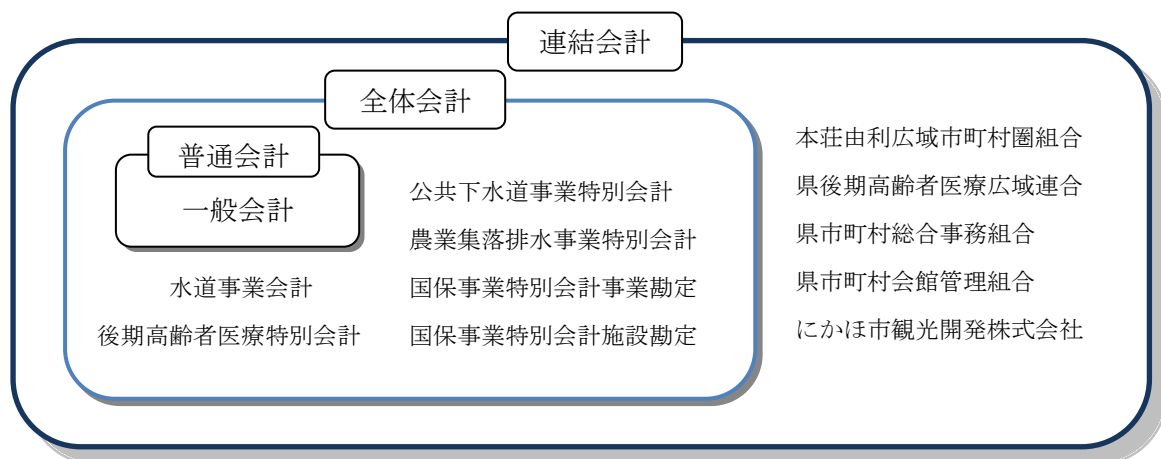
また、こうした市自らが行う事業とは別に、一部事務組合などの関係団体と連携協力して実施する行政サービスもあります。このように、市の財政は普通会計のみで成り立っているものではないため、真のにかほ市全体の資産・負債・行政コスト・資金収支等の情報を総合的に分析するためには、関連が深い会計、法人などの財務書類を合体させた連結財務書類を用いる必要があります。

連結財務書類は、普通会計や特別会計に加え、公営企業会計及び市が一定割合以上出資している関係団体や法人を一つの行政サービス実施体とみなして作成する財務書類です。

(2) 連結の範囲

「統一的な基準による地方公会計マニュアル」に基づき、公営事業会計(企業会計である水道事業会計、下水道事業や国民健康保険事業等の特別会計)は全て連結の対象となります。また、一部事務組合・広域連合についても原則として経費負担割合に応じた比例連結対象となります。

さらに、資本金を50%以上出資している第三セクター等も全て連結対象となり、50%未満でもその経営に影響力を及ぼしている団体がある場合は連結の対象となります。にかほ市の場合は「にかほ市観光開発株式会社」が該当します。



(3)連結財務書類作成の流れ

《ステップ1》 個別財務書類の読替・作成

連結財務書類の基礎となる各会計、団体、法人の個別財務書類のうち水道事業会計、第三セクター等は、地方公営企業法、公益法人会計基準に基づく法定決算書類が作成されています。これらの法定決算書類は、会計基準の違いにより表示科目が異なるため、「統一的な基準による地方公会計マニュアル」で示された連結財務書類の科目に揃えるために表示科目の変更をしなければなりません。この処理を読替といいます。

また、国民健康保険事業特別会計などの公営事業会計や一部事務組合では、一般会計等の作成要領に準拠して新たに個別財務書類を作成します。

《ステップ2》 個別財務書類の修正

読替・作成された個別財務書類は、「統一的な基準による地方公会計マニュアル」の連結財務書類作成要領に示された資産評価などを行うため、必要な修正を行います。

修正とは、会計基準が同一でない各財務書類の数値を合算して連結財務書類を作成するにあたって、統一した評価方法を適用するために行う手続きです。主な修正としては、退職手当引当金が計上されていない会計・団体・法人の財務書類に退職手当引当金を計上する処理などがあります。

《ステップ3》 純計処理(単純合算と内部取引の相殺消去)

連結財務書類は、連結対象団体(会計)を一つの行政サービス実施主体とみなして作成することから、連結内部での取引を消去する必要があります。

具体的には、普通会計から特別会計等への繰出金・負担金・補助金などは連結全体で考えれば内部の資金移動にすぎず、連結対象団体(会計)以外の外部に対するものではないため、これらを消去します。

第2節 連結貸借対照表について

連結対象団体(会計)を一つの行政サービス実施体とみなして、にかほ市全体の資産や負債のストック情報を網羅した財務書類が連結貸借対照表です。

(1) 概要

令和3年度 連結貸借対照表
(令和4年3月31日現在)

(単位:千円)

資 産 の 部	金 額	負 債 の 部	金 額
【資産の分】		【負債の部】	
固定資産	147,755,294	固定負債	30,003,469
有形固定資産	143,403,506	地方債	25,604,965
事業用資産	43,904,198	長期未払金	-
インフラ資産	98,777,735	退職手当引当金	2,107,429
物品	721,572	その他	2,291,076
無形固定資産	17,433	流動負債	3,141,882
投資その他の資産	4,334,356	1年内償還予定地方債	2,823,494
投資及び出資金	370,385	賞与等引当金	144,901
長期延滞債権	106,160	その他	173,487
長期貸付金	20,141	負債合計	33,145,351
基金	3,857,507	【純資産の部】	
その他	81	固定資産等形成分	151,315,098
徴収不能引当金	△19,918	余剰分(不足分)	△31,150,526
流動資産	5,554,630		
現金預金	1,856,298		
未収金	120,999		
短期貸付金	-		
基金	3,559,804		
棚卸資産	16,932		
その他	810		
徴収不能引当金	△213	純資産合計	120,164,573
資産合計	153,309,924	負債及び純資産合計	153,309,924

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

資産の部は、事業用資産などの有形固定資産が 1,434 億 351 万円、出資金や特定目的基金などの投資その他の資産が 43 億 3,436 万円、歳計現金や財政調整基金などの流動資産が 55 億 5,463 万円となり、資産総額は 1,533 億 992 万円となりました。

負債の部では、固定負債が 300 億 347 万円、流動負債が 31 億 4,188 万円となり負債総額は 331 億 4,535 万円となりました。

資産から負債を差し引いた純資産は、1,201 億 6,457 万円となりました。

(2) 普通会計貸借対照表と連結貸借対照表の比較

普通会計と連結会計の貸借対照表の数値を比較してみると、資産の部の合計倍率 1.27 倍に対し、投資その他の資産が 1.32 倍とやや高くなっているのは、一部事務組合等の基金残高が多いためです。また、流動資産の未収金が 7.02 倍と大幅に高くなっているのは、国民健康保険事業の保険税や公共下水道事業、農業集落排水事業及び水道事業などの使用料の未収金が多いためです。負債の部は、固定負債の地方債 2.06 倍、1 年内償還予定地方債 1.70 倍となっていることから、普通会計に比べ地方債の償還が進んでいないことが分かります。純資産の部は 1.14 倍で負債が多いことに伴い、普通会計と同程度の水準となっています。

普通会計と連結会計の貸借対照表の連単倍率による比較

(単位：千円)

科目名	普通会計	連結会計	連単倍率
【資産の部】	120,865,332	153,309,924	1.27
固定資産	116,939,296	147,755,294	1.26
有形・無形固定資産	113,651,612	143,403,506	1.26
投資その他の資産	3,287,684	4,334,356	1.32
流動資産	3,926,035	5,554,630	1.41
未収金	17,239	120,999	7.02
基金	3,266,832	3,559,804	1.09
【負債の部】	15,853,845	33,145,351	2.09
固定負債	14,062,256	30,003,469	2.13
地方債	12,407,057	25,604,965	2.06
退職手当引当金	1,655,199	2,107,429	1.27
流動負債	1,791,589	3,141,882	1.75
1 年内償還予定地方債	1,662,195	2,823,494	1.70
賞与等引当金	129,393	144,901	1.12
【純資産の部】	105,011,487	120,164,573	1.14
固定資産等形成分	120,206,128	151,315,098	1.26
余剰分(不足分)	△15,194,642	△31,150,526	2.05

*連単倍率とは、連結会計が普通会計の何倍になっているかを表すものです。

*表示単位未満を四捨五入・主要部分を抜粋して表示(表内計算で一致しない場合があります)

第3節 連結行政コスト計算書について

地方公共団体の行政活動は、資産形成につながらない行政サービスが大きな比重を占めており、福祉や教育などの行政サービスを提供するためのコストがいくら掛かっているかを整理したものが普通会計の行政コスト計算書です。この考えを連結対象団体(会計)にも適用し、一つの行政サービス実施体とみなして作成したのが、連結行政コスト計算書です。

令和3年度 連結行政コスト計算書
(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日現在)

(単位:千円)

科 目 名	金 額
経常費用 A	28,510,074
1.人にかかるコスト	3,130,103
(1)人件費	2,695,744
(2)その他	434,359
2.物にかかるコスト	11,271,797
(1)物件費	4,429,479
(2)減価償却費	5,616,976
(3)その他	1,225,343
3.移転支出的なコスト	13,492,605
(1)補助金等	11,888,759
(2)その他	1,603,845
4.その他のコスト	615,569
(1)支払利息	264,375
(2)その他	351,194
経常収益 B	2,634,935
使用料及び手数料	917,640
その他	1,717,295
純経常行政コスト (A-B)	25,875,139
臨時損失 C	88,125
臨時利益 D	24,412
純行政コスト (純経常行政コスト+C-D)	25,938,852

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

経常費用では、移転支出的なコストが 134 億 9,261 万円(47.3%)で最も多く、次いで物にかかるコストが 112 億 7,180 万円(39.5%)で、中でも補助金等が 118 億 8,876 万円(41.7%)となっています。主な経費は、新型コロナウイルスワクチン接種事業や地域おこし協力隊関連経費、水道事業会計の施設維持管理負担金等です。経常収益では、使用料及び手数料が 9 億 1,764 万円(34.8%)で、各種使用料及び手数料の他、水道事業会計の営業収益が主なものです。その他の 17 億 1,730 万円(65.2%)には、学校給食納付金や市有財産の貸付料、第三セクターの事業収入などが計上されています。

第4節 連結純資産変動計算書について

連結純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値が一年間でどのように変動したかを表す純資産変動計算書を連結した財務書類です。

期首純資産残高は、前年度連結貸借対照表の純資産合計及び前年度連結純資産変動計算書の期末純資産高と、期末純資産高は当年度連結貸借対照表の純資産合計と一致します。

また、純行政コストは連結行政コスト計算書の純行政コストと一致します。【3ページ「財務書類4表の相互関係を参照」】

税収等は普通会計の地方税、地方交付税及び地方譲与税などの他、国民健康保険事業特別会計の国民健康保険税や、後期高齢者医療特別会計の保険料などが主なものとなっています。

令和3年度 連結純資産変動計算書
(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日現在)

(単位:千円)

区 分	金 額
前年度末純資産残高	318,621,596
純行政コスト	△25,938,852
財源	22,931,937
税収等	13,803,113
国県等補助金	9,128,824
資産評価差額	324
無償所管換等	△195,375,829
比例連結割合変更に伴う差額	△80,458
その他	5,854
本年度末純資産残高	120,164,573

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

第5節 連結資金収支計算書について

連結資金収支計算書は、1年間の行政活動に伴う現金ベースでの資金の流れを3つの区分の行政活動ごとに示す資金収支計算書を連結した財務書類です。

令和3年度の連結資金収支計算書を概観すると、業務活動収支が24億3,231万円の黒字、投資活動収支が13億3,371万円の赤字、財務活動収支が9億4,160万円の赤字となっています。一般的に資本形成のための建設事業には一時的に大きな資金が必要となるため、投資活動収支の赤字分は業務活動収支の黒字分で補てんすることになります。

本年度資金収支は1億5,701万円の黒字となり、歳計外現金残高を加えた本年度末現金預金残高は18億5,630万円になりました。なお、連結資金収支計算書の本年度末現金預金残高は連結貸借対照表の現金預金と一致します。

令和3年度 連結資金収支計算書
(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日現在)

(単位:千円)	
区 分	金 額
1. 業務活動収支	2,432,313
2. 投資活動収支	△1,333,705
3. 財務活動収支	△941,600
本年度資金収支額	157,009
前年度末資金残高	1,697,435
比例連結割合変更に伴う差額	1,059
本年度末資金残高	1,855,503
本年度末歳計外現金残高	796
本年度末現金預金残高	1,856,298

*表示単位未満を四捨五入して表示(表内計算で一致しない場合があります)

全体・連結 財務書類

- 貸借対照表
- 行政コスト計算書
- 純資産変動計算書
- 資金収支計算書
- 注記

連結貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

自治体名:にかほ市

会計:全体会計

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	145,879,615	固定負債	29,460,835
有形固定資産	142,556,152	地方債等	25,497,567
事業用資産	43,078,650	長期未払金	-
土地	19,300,072	退職手当引当金	2,028,611
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	8,364,507	その他	1,934,657
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	3,078,173
建物	35,045,055	1年内償還予定地方債等	2,813,514
建物減価償却累計額	-20,963,545	未払金	115,494
建物減損損失累計額	-	未払費用	-
工作物	3,831,877	前受金	-
工作物減価償却累計額	-2,499,317	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	139,390
船舶	-	預り金	9,776
船舶減価償却累計額	-	その他	-
船舶減損損失累計額	-	負債合計	32,539,008
浮標等	-	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	149,372,098
浮標等減損損失累計額	-	余剰分(不足分)	-30,925,469
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	-		
インフラ資産	98,777,735		
土地	679,645		
土地減損損失累計額	-		
建物	16,095,737		
建物減価償却累計額	-10,142,490		
建物減損損失累計額	-		
工作物	203,884,699		
工作物減価償却累計額	-112,137,307		
工作物減損損失累計額	-		
その他	935,610		
その他減価償却累計額	-544,159		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	6,000		
物品	2,634,422		
物品減価償却累計額	-1,934,655		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	3,323,463		
投資及び出資金	146,277		
有価証券	22,072		
出資金	124,205		
その他	-		
長期延滞債権	103,669		
長期貸付金	141		
基金	3,091,775		
減債基金	-		
その他	3,091,775		
その他	-		
徴収不能引当金	-18,399		
流動資産	5,106,021		
現金預金	1,500,252		
未収金	109,949		
短期貸付金	-		
基金	3,492,483		
財政調整基金	3,492,483		
減債基金	-		
棚卸資産	3,507		
その他	-		
徴収不能引当金	-170		
繰延資産	-	純資産合計	118,446,628
資産合計	150,985,636	負債及び純資産合計	150,985,636

連結貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

自治体名:にかほ市

会計:連結会計

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	147,755,294	固定負債	30,003,469
有形固定資産	143,403,506	地方債等	25,604,965
事業用資産	43,904,198	長期未払金	-
土地	19,342,540	退職手当引当金	2,107,429
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	8,364,507	その他	2,291,076
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	3,141,882
建物	36,478,400	1年内償還予定地方債等	2,823,494
建物減価償却累計額	-21,692,272	未払金	136,977
建物減損損失累計額	-	未払費用	21,790
工作物	4,127,156	前受金	-
工作物減価償却累計額	-2,716,382	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	144,901
船舶	-	預り金	10,709
船舶減価償却累計額	-	その他	4,011
船舶減損損失累計額	-	負債合計	33,145,351
浮標等	-	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	151,315,098
浮標等減損損失累計額	-	余剰分(不足分)	-31,150,526
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	500		
その他減価償却累計額	-250		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	-		
インフラ資産	98,777,735		
土地	679,645		
土地減損損失累計額	-		
建物	16,095,737		
建物減価償却累計額	-10,142,490		
建物減損損失累計額	-		
工作物	203,884,699		
工作物減価償却累計額	-112,137,307		
工作物減損損失累計額	-		
その他	935,610		
その他減価償却累計額	-544,159		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	6,000		
物品	2,749,507		
物品減価償却累計額	-2,027,935		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	17,433		
ソフトウェア	17,433		
その他	-		
投資その他の資産	4,334,356		
投資及び出資金	370,385		
有価証券	22,072		
出資金	348,313		
その他	-		
長期延滞債権	106,160		
長期貸付金	20,141		
基金	3,857,507		
減債基金	-		
その他	3,857,507		
その他	81		
徴収不能引当金	-19,918		
流動資産	5,554,630		
現金預金	1,856,298		
未収金	120,999		
短期貸付金	-		
基金	3,559,804		
財政調整基金	3,559,804		
減債基金	-		
棚卸資産	16,932		
その他	810		
徴収不能引当金	-213		
繰延資産	-	純資産合計	120,164,573
資産合計	153,309,924	負債及び純資産合計	153,309,924

連結行政コスト計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:全体会計

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	21,659,201
業務費用	13,973,424
人件費	2,887,352
職員給与費	2,165,174
賞与等引当金繰入額	135,993
退職手当引当金繰入額	192,705
その他	393,480
物件費等	10,678,945
物件費	4,228,907
維持補修費	870,028
減価償却費	5,573,449
その他	6,561
その他の業務費用	407,128
支払利息	262,537
徴収不能引当金繰入額	24,592
その他	119,999
移転費用	7,685,777
補助金等	6,256,017
社会保障給付	1,417,354
その他	12,406
経常収益	2,125,547
使用料及び手数料	900,942
その他	1,224,605
純経常行政コスト	19,533,653
臨時損失	88,125
災害復旧事業費	87,471
資産除売却損	360
損失補償等引当金繰入額	-
その他	293
臨時利益	24,411
資産売却益	-
その他	24,411
純行政コスト	19,597,367

連結行政コスト計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:連結会計

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	28,510,074
業務費用	15,017,469
人件費	3,130,103
職員給与費	2,372,501
賞与等引当金繰入額	141,504
退職手当引当金繰入額	181,739
その他	434,359
物件費等	11,271,797
物件費	4,429,479
維持補修費	903,680
減価償却費	5,616,976
その他	321,663
その他の業務費用	615,569
支払利息	264,375
徴収不能引当金繰入額	26,111
その他	325,083
移転費用	13,492,605
補助金等	11,888,759
社会保障給付	1,418,619
その他	185,226
経常収益	2,634,935
使用料及び手数料	917,640
その他	1,717,295
純経常行政コスト	25,875,139
臨時損失	88,125
災害復旧事業費	87,471
資産除売却損	360
損失補償等引当金繰入額	-
その他	293
臨時利益	24,412
資産売却益	-
その他	24,412
純行政コスト	25,938,852

連結純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:全体会計

(単位:千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	316,855,936	348,837,784	-31,981,848	-
純行政コスト(△)	-19,597,367		-19,597,367	-
財源	16,643,988		16,643,988	-
税収等	10,570,631		10,570,631	-
国県等補助金	6,073,358		6,073,358	-
本年度差額	-2,953,379		-2,953,379	-
固定資産等の変動(内部変動)		-3,204,395	3,204,395	
有形固定資産等の増加		475,356,023	-475,356,023	
有形固定資産等の減少		-478,439,112	478,439,112	
貸付金・基金等の増加		1,101,393	-1,101,393	
貸付金・基金等の減少		-1,222,699	1,222,699	
資産評価差額	-194	-194		
無償所管換等	-195,375,829	-195,375,829		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-84,720	-631,445	546,725	-
その他	4,815	-253,823	258,638	
本年度純資産変動額	-198,409,307	-199,465,686	1,056,379	-
本年度末純資産残高	118,446,628	149,372,098	-30,925,469	-

連結純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:連結会計

(単位:千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	318,621,596	350,727,858	-32,106,261	-
純行政コスト(△)	-25,938,852		-25,938,852	-
財源	22,931,937		22,931,937	-
税収等	13,803,113		13,803,113	-
国県等補助金	9,128,824		9,128,824	-
本年度差額	-3,006,915		-3,006,915	-
固定資産等の変動(内部変動)		-3,185,334	3,185,334	
有形固定資産等の増加		475,374,149	-475,374,149	
有形固定資産等の減少		-478,487,064	478,487,064	
貸付金・基金等の増加		1,186,786	-1,186,786	
貸付金・基金等の減少		-1,259,205	1,259,205	
資産評価差額	324	324		
無償所管換等	-195,375,829	-195,375,829		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-80,458	-597,090	516,633	-
その他	5,854	-254,830	260,684	
本年度純資産変動額	-198,457,024	-199,412,759	955,736	-
本年度末純資産残高	120,164,573	151,315,098	-31,150,526	-

連結資金収支計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:全体会計

(単位:千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	15,891,561
業務費用支出	8,205,785
人件費支出	2,696,851
物件費等支出	5,098,416
支払利息支出	262,537
その他の支出	147,981
移転費用支出	7,685,777
補助金等支出	6,256,017
社会保障給付支出	1,417,354
その他の支出	12,406
業務収入	18,459,899
税金等収入	11,200,386
国県等補助金収入	5,849,291
使用料及び手数料収入	903,086
その他の収入	507,135
臨時支出	87,764
災害復旧事業費支出	87,471
その他の支出	293
臨時収入	65
業務活動収支	2,480,638
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,842,242
公共施設等整備費支出	1,204,848
基金積立金支出	1,527,394
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	110,000
その他の支出	-
投資活動収入	1,550,631
国県等補助金収入	239,207
基金取崩収入	1,124,495
貸付金元金回収収入	110,338
資産売却収入	24,346
その他の収入	52,245
投資活動収支	-1,291,612
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,706,758
地方債等償還支出	2,706,756
その他の支出	2
財務活動収入	1,748,622
地方債等発行収入	1,735,060
その他の収入	13,562
財務活動収支	-958,136
本年度資金収支額	230,890
前年度末資金残高	1,269,362
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	1,500,252
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	-
本年度末歳計外現金残高	-
本年度末現金預金残高	1,500,252

連結資金収支計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名:にかほ市

会計:連結会計

(単位:千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	22,736,814
業務費用支出	9,250,155
人件費支出	2,964,482
物件費等支出	5,667,571
支払利息支出	264,375
その他の支出	353,726
移転費用支出	13,486,660
補助金等支出	11,888,759
社会保障給付支出	1,418,619
その他の支出	179,281
業務収入	25,256,827
税収等収入	14,431,170
国県等補助金収入	8,904,757
使用料及び手数料収入	919,784
その他の収入	1,001,116
臨時支出	87,764
災害復旧事業費支出	87,471
その他の支出	293
臨時収入	65
業務活動収支	2,432,313
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,917,489
公共施設等整備費支出	1,210,931
基金積立金支出	1,596,558
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	110,000
その他の支出	-
投資活動収入	1,583,784
国県等補助金収入	239,207
基金取崩収入	1,157,649
貸付金元金回収収入	110,338
資産売却収入	24,346
その他の収入	52,245
投資活動収支	-1,333,705
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,730,222
地方債等償還支出	2,725,352
その他の支出	4,870
財務活動収入	1,788,622
地方債等発行収入	1,775,060
その他の収入	13,562
財務活動収支	-941,600
本年度資金収支額	157,009
前年度末資金残高	1,697,435
比例連結割合変更に伴う差額	1,059
本年度末資金残高	1,855,503
前年度末歳計外現金残高	922
本年度歳計外現金増減額	-126
本年度末歳計外現金残高	796
本年度末現金預金残高	1,856,298

注 記

I 重要な会計方針

①有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得価額とし、取得価額が不明なものは原則として再調達価額としております。
また開始後については、原則として取得原価とし再調達は行わないこととしております。
ただし、地方公営企業法が適用される会計については、地方公営企業会計基準によります。

②有価証券等の評価基準及び評価方法

- ・出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としております。
- ・出資金のうち、市場価格がないものは出資金額をもって貸借対照表価額としております。

ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。
なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしております。

③有形固定資産等の減価償却の方法

- ・有形固定資産（事業用資産、インフラ資産）
定額法を採用しております。
- ・無形固定資産
定額法を採用しております。

④引当金の計上基準及び算定方法

- ・徴収不能引当金
過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。
ただし、水道事業会計については、一般債権については不能欠損率により、貸倒懸念債権については個別に回収可能性を検討し、徴収不能引当金を計上しております。
- ・賞与引当金
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。
- ・退職手当引当金
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っております。
- ・損失補償引当金
地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定方法に従っております。

⑤リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っております（少額リース資産及び短期のリース取引には簡便的な取扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っております）。

⑥資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としております。
このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

⑦その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理
次の会計を除いて税込方式によっております。
水道事業会計

II 重要な会計方針の変更等

該当する事象はありません。

III 重要な後発事象

①その他重要な後発事象

- ・有形固定資産のうちインフラ資産（工作物：道路）について、取得年月日の精査により減価償却累計額を修正しております。
- ・その他有形固定資産の精査により、取得価額が二重に計上されていた一部の資産について資産計上額を修正しております。

IV 偶発債務

会計年度末においては現実の債務ではないが、将来、一定の条件を満たすような事態が生じた場合に債務となるものはありません。

V その他

①対象範囲（対象とする会計）

【普通会計】
・一般会計

【全会計】
・国民健康保険事業特別会計事業勘定（一般会計等の作成要領に準拠し個別財務書類を作成。全部連結）
・国民健康保険事業特別会計施設勘定（一般会計等の作成要領に準拠し個別財務書類を作成。全部連結）
・後期高齢者医療特別会計（一般会計等の作成要領に準拠し個別財務書類を作成。全部連結）
・公共下水道事業特別会計（法適用移行中のため、決算統計に基づき作成。全部連結）
・農業集落排水事業特別会計（法適用移行中のため、決算統計に基づき作成。全部連結）
・水道事業会計（法定決算書より読替。全部連結）

②出納整理期間について、財務書類の作成基準日は会計年度末（3月31日）ですが、地方自治法第235条の5（「普通地方公共団体の出納は翌年度の5月31日をもって閉鎖する」）の規定により、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

③表示単位未満の金額は四捨五入することとしておりますが、四捨五入により合計金額に齟齬が生じる場合があります。

注 記

I 重要な会計方針

①有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得価額とし、取得価額が不明なものは原則として再調達価額としております。
また開始後については、原則として取得原価とし再調達は行わないこととしております。
ただし、地方公営企業法が適用される会計については、地方公営企業会計基準によります。

②有価証券等の評価基準及び評価方法

・出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としております。
・出資金のうち、市場価格がないものは出資金額をもって貸借対照表価額としております。
ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。
なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしております。

③有形固定資産等の減価償却の方法

・有形固定資産（事業用資産、インフラ資産）
定額法を採用しております。
・無形固定資産
定額法を採用しております。

④引当金の計上基準及び算定方法

・徴収不能引当金
過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。
ただし、水道事業会計については、一般債権については不能欠損率により、貸倒懸念債権については個別に回収可能性を検討し、徴収不能引当金を計上しております。
・賞与引当金
翌年度6月支給予定の期末・勤労手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。
・退職手当引当金
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っております。
・損失補償引当金
地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定方法に従っております。

⑤リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っております（少額リース資産及び短期のリース取引には簡便的な取扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っております）。

⑥資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としております。
このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

⑦その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理
次の会計を除いて税込方式によっております。
水道事業会計

II 重要な会計方針の変更等

該当する事象はありません。

III 重要な後発事象

①その他重要な後発事象

・有形固定資産のうちインフラ資産（工作物：道路）について、取得年月日の精査により減価償却累計額を修正しております。
・その他有形固定資産の精査により、取得価額が二重に計上されていた一部の資産について資産計上額を修正しております。

IV 偶発債務

会計年度末においては現実の債務ではないが、将来、一定の条件を満たすような事態が生じた場合に債務となるものではありません。

V その他

①対象範囲（対象とする会計）

【普通会計】
・一般会計

【全会計】

・国民健康保険事業特別会計事業勘定（一般会計等の作成要領に準拠し個別財務書類を作成。全部連結）
・国民健康保険事業特別会計施設勘定（一般会計等の作成要領に準拠し個別財務書類を作成。全部連結）
・後期高齢者医療特別会計（一般会計等の作成要領に準拠し個別財務書類を作成。全部連結）
・公共下水道事業特別会計（法適用移行中のため、決算統計に基づき作成。全部連結）
・農業集落排水事業特別会計（法適用移行中のため、決算統計に基づき作成。全部連結）
・水道事業会計（法定決算書より読替。全部連結）

【連結会計】

・本荘由利広域市町村圏組合（経費負担割合23.282%により比例連結）
・秋田県市町村総合事務組合（共同処理する各事務の経費負担割合により比例連結）
退職手当事務2.494%、消防団員等公務災害補償事務2.913%、非常勤職員等公務災害補償事務1.381%、学校医等公務災害補償事務5.263%、
交通災害共済事務6.771%
・秋田県市町村会館管理組合（経費負担割合5.000%により比例連結）
・秋田県後期高齢者医療広域連合（経費負担割合2.650%により比例連結）
・にかほ市観光開発株式会社（法定決算書より読替。全部連結）

②出納整理期間について、財務書類の作成基準日は会計年度末（3月31日）ですが、地方自治法第235条の5（「普通地方公共団体の出納は翌年度の5月31日をもって閉鎖する」）の規定により、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

③表示単位未満の金額は四捨五入することとしておりますが、四捨五入により合計金額に齟齬が生じる場合があります。

